

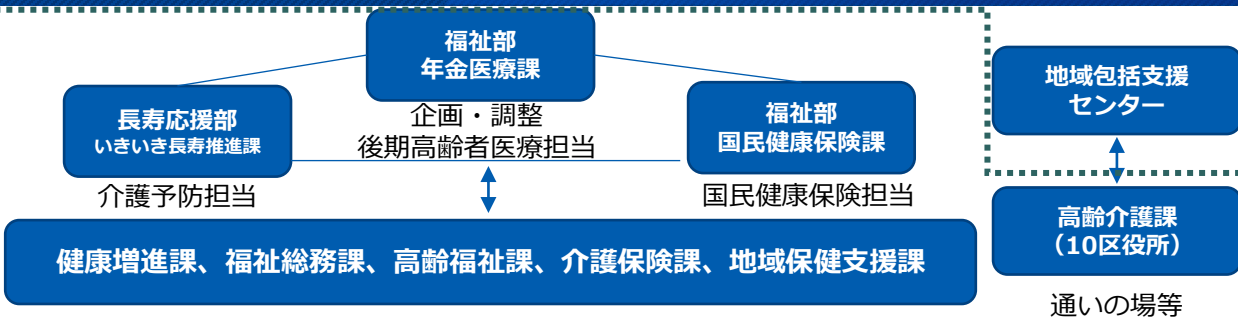
埼玉県さいたま市 ー既存の会議体を活用し、市全体で事業を企画ー

市の概況(令和4年4月1時点)

人口	1,334,975人
高齢化率	23.2%
後期被保険者数	157,671人
日常生活圏域数	27圏域

実施体制

一体的実施検討会



取組の経緯

- 令和元年度に関係課長会議を開催し、一体的実施について情報共有を行い、年金医療課を事業担当課に決定した。庁内連携体制については、既存の会議体である地域包括ケア推進PTの下部組織として一体的実施検討会を設置した。3回の検討会を開催し、関係課で既存事業の確認を行い、一体的実施の事業内容や実施体制を検討、基本方針の作成や評価方法の検討も共に行い、令和2年度から事業実施に至る。事業内容の企画にあたっては、既存事業を関係部署間で整理、共有をすることで、どの事業と連携した取り組みができそうか、どの事業が不足しているのか2つの視点で、事業を組み立てることができた。令和2年度は1区あたり1圏域の10圏域で開始し、14圏域、18圏域と徐々に拡大しており、令和6年度全圏域での実施を目指す。

企画調整・関係機関との連携

- 庁内連携**
さいたま市高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施検討会を随時開催し、情報共有を図る。
その検討会のなかで作業部会を立ち上げ、フレイル普及のためのリーフレットを作成。関係各課で共通のものを使用することで、より市民に認識してもらえよう工夫。



↑作業部会で作成したリーフレット

- 医療関係団体等との連携**
既存の医師会連絡協議会の場で、事業の情報共有や結果報告を行う。健診時本人に、電話番号の記載をしてもらえよう働きかけを依頼。

ハイリスクアプローチ

- その他の生活習慣病等重症化予防**
前年度末時点の年齢が79歳以下で、生活習慣病リスク者 (Hba1c:7.0%以上、収縮期血圧160mmHg以上、中性脂肪300mg/dl以上、HDLコレステロール35mg/dl未満) のうち、特定のレセプトのある方を除外した対象者へ、医療機関の受診勧奨を行う。
- 糖尿病性腎症重症化予防**
国民健康保険との継続支援事業として、糖尿病性腎症重症化予防対策事業に基づく「保健指導プログラム」修了者に対し、個別指導・フォロー教室を行う。
- 低栄養指導**
76~79歳で令和3年度BMIが20.0未満で、1年間で2kg以上の体重減少がある糖尿病治療歴がない者に対し、栄養指導及び歯科口腔指導を行う。
- 健康状態不明者**
76~79歳のうち、令和3年度医療機関未受診(健診も含む)及び介護保険サービス未利用の者に対し、アンケートを送付、事業参加希望者に個別指導を行う。

ポピュレーションアプローチ

- 口腔機能向上に関する健康教育・健康相談**
派遣希望のあった通いの場1か所につき、歯科衛生士を1回派遣、参加者に対し口腔機能向上に関する健康教育や健康相談を実施。
- 市内図書館で開催するフレイル予防・生活習慣病予防の普及啓発**
図書館と共催で、フレイルチェックの体験や後期高齢者の質問票を活用した健康相談を行う(令和4年度5か所でそれぞれ1回実施)。フレイル予防に関するブックリストの発行や期間限定の展示の設営を行い、広く市民の目にとまるよう働きかけ、普及啓発を実施。



↑図書館での普及啓発事業の様子



←介護予防に関する書籍コーナー

埼玉県さいたま市

事業結果と評価概要（令和3年度結果）

		対象者数	参加者数	評価指標	状況（評価結果）
ハイリスク アプローチ	低栄養予防・口腔機能改善	115	25	・保健指導実施率 ・生活習慣改善意欲の保有率 ・他機関・介護予防事業等へつながった割合	生活習慣病改善意欲の保有率6割を超え、目標達成 他機関・介護予防事業等の利用 1人
	糖尿病性腎症重症化予防	25	4	・保健指導実施率 ・生活習慣（行動計画）の維持率	個別介入した4人とも行動計画で立てた取組を継続できている。
	その他の生活習慣病等重症化予防	69	29	・保健指導実施率 ・指導後受診率	文書及び電話指導後に受診（または予定）した人数 21人
	健康状態不明者の実態把握	883	112	・保健指導実施率 ・他機関・介護予防事業等へつながった割合	他機関・介護予防事業等の利用 4人
ポピュレーション アプローチ	フレイル予防お立ち寄り相談事業	-	累計83	・行動変容	市内4か所の図書館で実施。「フレイルを知った」方の割合 80%、「フレイル予防に取り組もうと思った」方の割合 86%
	通いの場における歯科衛生士派遣事業	-	累計180	・健康教育等を受けた通いの場の参加者の満足度	アンケート回答者のうち、「満足」と回答した参加者 173/174人

【健康状態不明者】「はつらつ健康アンケート」（質問票）を送付、アンケート結果を確認する。個人の健康課題に応じた関連資料を送付後、二次質問など電話相談・状況把握を行い、必要な健康指導やサービスへの橋渡しを行う。希望者に対しては訪問による保健指導も実施する。質問の結果に応じてどのような支援を行うか、支援者によってばらつきがでないよう支援フローをマニュアル化して共有。

【フレイル予防お立ち寄り相談事業】既存の調査から、さいたま市は図書館の利用率が全国的に高いことがわかり、元気高齢者が多く訪れる図書館で普及啓発事業を実施。これまでは子ども向けイベントなどはあったが、高齢者向けのものは少なかったため、図書館側から良い反響があった。フレイルという言葉にあまり馴染みのない高齢者の参加につながり、生活習慣病やフレイル予防に取り組む意識付けにつながった。また、高齢者だけでなく子や孫の世代がイベントに参加することで、高齢者のフレイル予防について家族間での意識付けにもつながった。

課題・今後の展望

- アンケートの回収率について、返送先が委託先となっているため返送について問い合わせがくる。市役所を返送先にすれば回収率の増加が見込めるかもしれないが回収事務の増加が懸念事項である。
- 返信してくれるのは比較的元気な高齢者のため、未返信の方に今後どうアプローチしていくかが検討事項である。
- 指導・相談後に、通いの場などを利用してくれる人を増やすためには、どうすればよいのか検討の余地がある。
- 令和4年度5か所の図書館で開催したお立ち寄り相談事業については、今後も開催する図書館数を増やしていきたいと考えている。